# 第62回全国消防技術者会議の開催報告

## 消防研究センター

11月20日（木）及び21日（金）の２日間にわたり、第62回全国消防技術者会議が、東京都港区虎ノ門のニッショーホールで開催されました。この会議は、消防防災の科学技術に関する調査研究、技術開発等の成果を発表し、消防職員や消防団員をはじめとする消防関係者間での意見交換を行う場として、昭和28年より毎年開催されているものです。

今回は初めての試みとして、近年、実施体制等が課題となっている火災原因調査を特集する形で、１日目に「消防防災研究講演会」を、２日目に「全国調査技術会議」を開催する構成といたしました。また、併せて「平成26年度消防防災科学技術賞」の表彰式及び作品の展示発表を行いました。今回は消防関係者以外の方からも広く聴講者を募り、２日間で全国から延べ1,200人を超える方々の参加をいただきました。

### 【１日目：消防防災研究講演会】

会議１日目は、「火災原因調査の取り組みと調査技術の高度化」をテーマとし、消防研究センターにおける研究成果等を発表する「第18回消防防災研究講演会」を開催致しました。

基調講演として、「火災・爆発災害の燃焼現象としての理解―発生過程と被害拡大過程―」と題して、東京大学大学院工学系研究科の土橋律教授にご講演いただきました(写真１)。火災や爆発災害が発生した場合において、その原因を究明することは極めて重要ですが、複雑多様化している災害の発生メカニズム、被害拡大過程等の解明には、高度な科学的な知見が必要です。今回の基調講演では、その災害を燃焼現象として捉え、発生過程と被害拡大過程について大変判り易くご講演いただき、消防関係者にとって大変有用な講演となりました。

その後、消防研究センターが実施してきた最近の火災調査事例である「福知山花火大会におけるガソリン携行缶に関する火災調査」、「姫路市の化学工場爆発事故調査」や、調査結果の消防施策及び消防活動への反映事例を報告するとともに、今後の火災原因調査手法の多様化と火災原因調査技術の高度化に向けた取り組みについて発表しました。

総合討論では、火災原因調査のあり方や火災再現シミュレーションの活用などについて発表者と参加者による活発な意見交換がなされました。

### 【２日目：全国調査技術会議】

会議２日目は、全国の消防本部において実施された火災・危険物流出等の事故に関する原因調査事例を発表する「全国調査技術会議」を開催致しました。

発表作品は、「平成26年度消防防災科学技術賞（原因調査事例報告）」の受賞作品10件と全国各地で開催された調査技術会議で発表された原因調査事例報告等から13件の計23件で、「電気設備・器具」、「建物火災」、「危険物施設火災／漏洩・産業施設火災」、「車両火災」、「ガス石油設備・器具」の５つのカテゴリーに分かれて発表が行われました（写真２）。

多くの報告において、原因を解明するための再現実験を実施するなど科学的手法を取り入れた客観的な原因調査が行われており、説得力のある実証的な調査結果が発表されていました。

全国消防技術者会議の次回開催に関しましては、決定次第、消防研究センターホームページ（http://nrifd.fdma.go.jp/）等によりご案内させていただく予定です。

写真１　土橋教授による基調講演

写真２　調査事例発表の様子

**問合わせ先**
消防庁消防研究センター　研究企画室
TEL: 0422-44-8331（代表）